

第1分科会記録

学校全体が活性化する学校評価の活用

〔学校評価の意義と研究の概要等についての説明及び報告〕

大内進（国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員）

〔シンポジウム〕

報告者：野坂静枝（神戸市立垂水養護学校 校長）

報告者：兵馬孝周（東京都立調布特別支援学校 校長）

望月由佳恵（東京都立調布特別支援学校 主幹教諭）

指定討論者：西川公司（放送大学 客員教授）

司会：小澤至賢（国立特別支援教育総合研究所 主任研究員）

〔全体進行〕

牧野泰美（国立特別支援教育総合研究所 主任研究員）

第1分科会では、はじめに、司会の牧野主任研究員が、本分科会の趣旨と進行についての説明を行った後、専門研究A「特別支援学校の特性を踏まえた学校評価の在り方に関する実際的研究」の研究代表者である大内上席総括研究員が、学校評価の意義と研究の概要・成果についての説明と報告を行った。

その後のシンポジウムでは、上記2組（3名）の報告者からの報告を受けた後、討論・協議を行った。

野坂校長からは、全教職員によるPDCAサイクルを基にした学校評価システムの確立による学校の活性化を目指す立場から、学校の中期目標の達成や次期中期目標の見直し等に役立てるための学校評価の実施・改善の取組についての報告があった。

兵馬校長、望月主幹教諭からは、知的障害のある児童生徒による学校評価を取り入れ、学校経営に生かそうとする立場から、児童生徒による評価への取組の経緯や課題、絵カードを使った実践についての報告があった。

これを受け、シンポジウム司会の小澤主任研究員が、各校の学校評価のポイントの整理（評価の重点化、良い評価の面を重視した学校改善、児童生徒等さまざまな主体による学校評価の意義）、学校評価システムの構造の説明（内部的⇔外部的／説明責任目的⇔改善目的の軸における自己評価・学校関係者評価・第三者評価の位置づけ）や、イギリスにおける学校評価に関する情報（自己評価の重視への動き、費用問題、優良実践校の積極的評価等）の紹介を行った。

<指定討論>

それらを踏まえ、指定討論者の西川教授より、学校長経験者としての立場から、学校評価の公表や報告には、地域やPTAの協力や教育委員会の支援につながり得るという面も、公表により批判等を受けることもあるという面もあるが、報告校における学校評価による

メリットにはどのようなものがあるか、協働の例にはどのようなものがあるかとの質問があった。

野坂校長からは、評価に基づいた予算がついたこと、学校評価を通じて視野の広い人の観点等が入ったことがメリットだったとの回答があった。

兵馬校長からは、うまくいっていることが伝えられる、学校の雰囲気はだんだん伝わっていくという無形のメリットがある一方、東京都の行っている推進校を受けられない学校もあり、受けられれば力がつくのでは、という話があった。

<参加者との質疑応答>

参加者：特別支援学校の学校評価は、小中学校とどこが違うのか、特別支援学校固有の学校評価の観点がわかりづらかった。特別支援学校におけるセンター的機能をどのように評価するのか等、通常の学校が特別支援学校に求めているものは何かを聞くアンケートの項目があってもよいのではないか。また、児童生徒アンケートについては、1名実施できなかったことは問題ではないか。

大内上席総括研究員：センター的機能、特別支援教育コーディネーター、交流及び共同学習、移行支援、通常の学校にはない環境の整備等は、特別支援学校の特性として大事にしたいと考えている。もうひとつ、特別支援学校には学部間の連携という課題があり、小・中・高等部一貫した教育が強調されているが、全国的な状況を概観すると、現段階では必ずしも実現されていないように思われる。

兵馬校長：最初の年は、児童生徒のアンケートに「きらい」と書かれた先生がいたので、校長がこの先生を呼んで話を聞いてくださいと担当者から言われて、一応尋ねてみたが、あさがしのようなになるといけないので、そういうことはやめた。

望月主幹教諭：児童生徒アンケートの聞き取りが実施できなかった1名については、本人の「いやです」という意見を尊重して、無理に行うことはやめた。教員の間にも、児童生徒全員からの聞き取りをなぜ行うのか、担任以外の者が児童生徒から聞き取った内容は、本人の真意なのか疑わしいという声がある一方、児童生徒を抽出して聞き取りを行うことは、児童生徒の線引きにつながるのではないかという声もある。3年目にして、アンケート実施の対象が児童生徒全員でなければ、人権の問題につながるという考えが教員の間に出てきた。毎日の授業のまとめの時間に児童生徒の声を聞く必要がある、という反省も出てきており、根気よく続けたい。

その後、研究協力者の寺崎先生から、本来は授業の中で行うべき、という深まりがあったのはよかった、というコメントと、小中学校における学校評価の問題点（1. マンネリ化→重点化のシステムが必要、2. 学校関係者評価の質問問題→評価者の訓練が必要）の紹介があった。

<まとめ>

司会（小澤主任研究員）より、評価はあくまでも道具であり評価を使って何をすべきかが重要であること、特別支援学校の特性についてよりわかりやすく提示していきたいとま

とめを行った。

最後に西川教授より、特別支援学校ならではの観点や項目等あれば御指導いただきたいこと、特別支援学校における学校評価についてはPTAとの協働等についても課題があり工夫が必要なこと、各学校からも貴重な提言をお聞かせいただきたい、とのコメントがあった。